

## 【タイトル】はじめての時代劇入門

### 【概要】

本企画は、日本の伝統文化である「時代劇」に興味を持つ初心者に向けての手引きとなる内容です。2024年のハリウッドドラマ『SHOGUN 将軍』や映画『侍タイムスリッパ』のヒットを受け、昨今、時代劇に注目が集まっています。しかし実際には時代劇を見るために何から手を着けていいかわからない方、基礎知識がないために戸惑いのある方もいます。とくに20代などの若年層は、そもそも時代劇が何であるかをわからない方もいます。そんな方に向けて、素朴な疑問を解決できるビジュアル重視の入門書を制作したいと思います。

これは、企画者がラジオ番組「時代劇が好きなのだ！」の制作を通じ、時代劇俳優や職人の技術と想いを残し、後世に引き継ぐ一助になりたいという気持ちが一層高まったことにより企画されました。現在TV時代劇のレギュラー放送はほぼなくなり、職人の高齢化も進み、後継者問題が叫ばれています。真田広之氏がエミー賞受賞のステージで、日本の時代劇関係者に向けて感動的なスピーチを残したのは記憶に新しいところです。先人たちの情熱を受け継ぎ、海と国境を越えて『SHOGUN 将軍』を制作した真田氏の想いと功績に微力でも日本国内からも応え、伝統の絆を繋ぎたいと願います。

### 【想定する読者ターゲット】

- 1 20～50代の男女
- 2 時代劇に興味はあるが、何から手をつければいいかわからない初心者
- 3 時代劇を見ていて、基礎的なところに疑問を持つ方
- 4 『SHOGUN 将軍』『侍タイムスリッパ』などの作品をきっかけに時代劇に興味を持った視聴者

### 【構成案】

#### 第1章:時代劇を楽しむには？

- ・時代劇の種類、系統、主役を演じてきた”スター”たち
- ・主な視聴方法やロケ地巡りなど楽しみ方の提案
- ・俳優や職人のインタビュー

#### 第2章:登場人物

- ・武士、町人、女性など、身分や役職の髷や衣装の特徴(時代劇俳優をモデルに撮影)

#### 第3章:衣装と小道具

- ・刀、着物、髪型など

#### 第4章:時代劇の世界観

- ・主に江戸時代の風俗や文化、歴史背景などを簡潔に紹介

### 【サンプル原稿】

## 第1章:時代劇を楽しむには？

### ●はじめに

時代劇と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？ そもそも時代劇ということばを知らない人もいるかもしれません。着物を着て、髷をつけて、舞台が江戸時代。これだけではないのですが、実はそこまでイメージができる人は、もうほとんどが90年代前半までに生まれた人だけかもしれません。

2011年には最も有名といっても過言ではないテレビ時代劇「水戸黄門」(TBS系)のレギュラー放送が終わり、以降は地方局やBS局での再放送ばかりになりました。BSが入らないという家庭も多く、それだけでも一般の視聴機会は激減しているはずですが。かつては一家に一台であったテレビは部屋ごとに配置され、子どもが両親や祖父母が見ている時代劇をともに目にする機会も減りました。そしていまはスマートフォンの普及により、若者はテレビからYouTubeなどのインターネットコンテンツへ移行。より自分が好きなコンテンツのみに集中できるようになり、若者の目に時代劇が入る機会は激減しています。

現在、新作の時代劇はほとんど生まれず、年に数本の映画と、大河ドラマやNHK-BSなど、NHK制作の時代劇のみが継続しているといった印象です。

90年代生まれ以降は、「水戸黄門」や「遠山の金さん」「暴れん坊将軍」など、日本人なら誰もが知っていた有名作品のタイトルを知りません。印籠を出して解決、桜吹雪を見せて解決、白馬に乗って砂浜を駆ける……ほとんど共通言語として使われてきたお馴染みのシチュエーションも会話や比喻で通用しなくなっています。「水戸黄門」においてはテレビドラマ以前から100年以上の歴史があり、日本人のなかに脈々と受け継がれてきた一般的な知識が、ドラマのレギュラー放送の終わりと共に急にぷつりと途絶えはじめています。

最後の時代劇のリアルタイム視聴者といえる80～90年代生まれの人がよく口にするのは、「お爺ちゃんとお婆ちゃんが見ていたので一緒に見ていた」というセリフです。そのせいでしょうか、世間ではどこか「時代劇はシニアが見るもの」「歴史の知識を求められそう」「古くさいので若者は見ない」というようなイメージが定着しているようです。はたしてそれは事実でしょうか？ 単純に、エンターテインメントの主流が映画館やテレビであったというシニア世代が、馴染みの媒体を見続けているだけではないでしょうか。若者は古くさいから時代劇を遠ざけているのではなく、ただ視聴機会に恵まれただけではないでしょうか。

テレビアニメ『忍たま乱太郎』や『鬼滅の刃』、ゲーム『刀剣乱舞』など、たくさんの時代もののアニメが若者に支持されています。これらは2.5次元と呼ばれる舞台の人気からもわかるように、実在の人間が演じて人気です。「これは時代劇かどうか？」そんなことは意識せずに、どの世代も普遍的に人気がある舞台設定なのです。

そうはいつても、時代劇が作られる機会は減り続けています。日本の京都の太秦というごくごく一部で受け継がれてきた職人の知恵は、現場が減ったことで後継者も減り、知恵はおろか、現在

現場にいる若手が既存作品を知らないことにより、かつての名作に使われてきた小道具などをぞんざいに扱ったり、紛失させてしまったりという、由々しき現状があるのです。

日本の時代劇は、現在ごく一部の日本人にしか作れません。俳優に求められるものは、所作や殺陣など、一日二日で身につけられる技術ではありません。小道具も100年以上の歴史を持つ会社が保管してきている貴重なものです。

だからこそ、2024年にインターネット配信のDisney+で世界的大ヒットになった『SHOGUN 将軍』の制作でも、真田広之さんは、世界に本物の時代劇を見せるために、太秦の職人をカナダのバンクーバーまで呼び寄せたのです。

つまり、時代劇は日本固有の伝統芸能、文化なのです。

昨今、この『SHOGUN 将軍』のヒットを受けて、海外から侍に関するものを見に来る観光客が増えているといいます。映画『侍タイムスリッパ』がSNSを中心に口コミで広がり、初めて往年の時代劇の雰囲気に触れて、興味を持った人もいるかもしれません。どちらも作品の裏側には、時代劇への愛や継承の想いが込められています。

ほかに、”和モノ”アニメから時代劇を目に入るようになり興味を持った人、好きなアイドルや俳優が出演したことで、興味を持った人もいます。

しかし興味を持って時代劇を見てみようと思っても何から見ればいいのかわからない、いざ見たところで、人物によって口調が異なることや、髷や着物の違いが何を意味しているのかわからない……といった疑問が湧く人もいます。

そんな人が時代劇をよりスムーズに楽しみ、これからも触れ続けてもらうために、素朴な疑問を解決できる本を作りたいと思いました。

私もそういった初心者のひとりだからです。

時代劇制作の現場をかつてのように元気づけることは難しいかもしれませんが。しかしこの本を手にとった方のひとりでも時代劇に興味を持ち、視聴者となってくれるなら、時代劇の文化は受け継がれてゆきます。ゆくゆくは職人への道を歩む人も現れるかもしれません。……そこまで高望みはしなくとも、これまでの日本人が受け継いできたものを少しずつでも種蒔きとして残せたら、最後の時代劇リアルタイム世代の私は嬉しいのです。ひょんなことから、時代劇俳優さんたちと交流を持つ機会をいただいた、私の小さな使命のようにも感じています。

なにはともあれ、実際の時代劇俳優さんや、職人の方から聞くお話はとても興味深いですよ。ぜひ一緒に時代劇の扉を開けてみましょう！

【「はじめに」以上です。よろしくお願いいたします】